経営改善及び連携・活用に関する取組評価
（令和6（2024）年度）

法人名（団体名）	公益財団法人川崎市文化財団	所管課	市民文化局市民文化振興室

経営改善及び連携・活用に関する方針

法人の概要

（1）法人の事業概要
・文化芸術の創造及び発信
・文化芸術活動の支援及び協働
・文化施設の管理・運営
・その他公益目的事業の推進に資する事業
（2）法人の設立目的
　市民の文化芸術活動の振興を図り、もって川崎市における文化芸術の創造を促進します。
（3）法人のミッション
・多様な文化芸術事業の実施（市民の文化芸術活動の振興、川崎市における文化芸術の創造を促進、多様なジャンルの文化芸術事業の推進）
・文化芸術施設の管理運営（市民の自発的かつ創造的な文化芸術活動の場を提供、文化芸術の創造と発信、文化芸術活動の支援と協働を推進）
・効率的な事業運営（財団全体の組織力を結集、経営感覚に富んだ効率的な事業運営）

本市施策における法人の役割

　誰もが気軽に文化芸術に触れ、多くの市民が文化芸術の楽しさを感じることができるよう、文化芸術活動を振興し、市民が文化芸術活動に参加しやすい環境づくりを進めることが必要であり、財団は市とともに文化施策を担う両輪となって、多様な文化芸術事業の実施、文化芸術施設の効果的な運営を行うとともに、市民の主体的な文化芸術活動を促進するために、文化芸術に係る中間支援の取組を推進することが求められます。
　さらに、平成30年には障害者による文化芸術活動の推進に関する法律が制定されるなど、文化芸術を通じたダイバーシティ（多様性）とソーシャル・インクルージョン（社会的包摂）を実現することが求められています。また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、市内の文化芸術活動も大きな影響を受けており、社会変容を踏まえた取組や、文化芸術団体等を支援することも求められているところです。
　市制100周年を迎える令和6（2024）年を見据え、文化芸術を持続的に振興していくためには、文化芸術の専門組織である財団の役割はますます大きくなるものと思われます。

		政策	施策
法人の取組と関連する市の計画	市総合計画上関連する政策等	政策4-8　スポーツ・文化芸術を振興する	施策4-8-2　市民の文化芸術活動の振興
	関連する市の分野別計画	川崎市文化芸術振興計画【R1～5】	

現状と課題

（1）現状
・文化芸術の振興を目的として設立された川崎市文化財団は、多様な文化芸術事業の実施、文化芸術施設の管理運営等の公益性の高い事業を展開しています。平成29年度より市の文化芸術施策の中核を担うための財団の機能強化を進め、「音楽のまち・かわさき」推進協議会事務局と機能統合した上で、本市職員を1名派遣するなど組織強化を図るとともに、浮世絵ギャラリーの運営、パラアート推進事業の実施など、新たな文化芸術事業の取組を展開しています。
・経営面においては、施設使用料収入、入場料収入等を主たる収入源としていたところ、新型コロナウイルスの感染拡大により施設使用料収入等が大幅な減収となったことから、財団において収支改善の取組を進めています。しかし、施設運営等にかかる固定経費（建物の賃借料、人件費等）が大きな割合を占めることなどから、その取組の効果は限定的です。
（2）課題
・本市における文化芸術の振興のために、財団が文化芸術振興に関する専門性やノウハウを蓄積し、魅力的な文化芸術事業のさらなる展開、優秀な人材の確保・育成、中間支援機能の強化に努める必要があります。
・新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、従前の文化芸術事業の効果検証を行いながら、社会変容に対応した文化芸術事業を構築する必要があります。
・管理運営する文化芸術施設について、稼働率や老朽化等の課題があり、その対応を図りながら、施設の有効活用を図っていく必要があります。
・自立的な財団運営に向けて、財団の経営基盤の強化が求められています。新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえて、効率的な施設運営等による支出削減を行うとともに、新たな自己収入の確保も求められます。

取組の方向性

（1）経営改善項目
・財団が主催する文化芸術事業について、参加者数の増加、効率的な経費執行を図り、収益性を高めるとともに、新たな自己収入の確保に努めます。
・管理運営する文化芸術施設について、施設の有効活用の見地から稼働率の向上に向けた取組を進め、収益性を高めます。
・自己収入割合を向上させるとともに、効率的な施設運営等による支出の削減をすすめ、財団経営の健全化を進めます。
（2）連携・活用項目
・財団において、より魅力のある文化芸術事業の企画・実施、施設の管理運営を適正かつ効果的に行うとともに、広報、相談、ネットワーク構築など中間支援の取組を強化して、誰もが文化芸術に親しむことができる環境の整備を行います。市は、財団と密接に連携し、事業効果の振り返りと適切な支援を行いながら、人材育成などの財団の自主的な取組を促していきます。
・平成30年度より本市職員（係長級）を財団に派遣していますが、財団の人材育成等の取組を進め、中間支援のための組織・事業体制を整備するために、市が財団の組織・事業に関与していくことが必要です。

本市が法人に求める経営改善及び連携・活用に関する取組

4カ年計画の目標

（施策推進に向けた取組）
〇社会変容を踏まえた多様な文化芸術事業の実施、運営施設の利用促進、文化芸術に係る中間支援の取組を推進し、文化芸術の一層の振興を推進します。
（経営健全化に向けた取組）
〇自己収入を増加させるとともに、効率的な施設運営等による支出の効率化をすすめることで収益性の強化及び自立性の強化を図り、財団経営の健全化を進めます。
（業務組織に関する取組）
〇川崎市の文化芸術振興に寄与する専門組織として、研修等を通じた人材育成を行うなど、職員の専門性の向上を図り、財団の組織強化を推進します。

1. 本市施策推進に向けた事業取組

取組No.	事業名	指標		現状値（令和3（2021）年度）	目標値（令和6（2024）年度）	実績値（令和6（2024）年度）	単位	達成度（※1）	本市による評価・達成状況（※2）・費用対効果（※3）	今後の取組の方向性（※4）
①	財団本部事業	財団所管施設の稼働率		44.5	50.0	53.1	%	a	A	Ⅰ
		財団所管施設における財団主催事業の参加者数		3,553	5,200	6,115	人	a		
		事業別の行政サービスコスト	本市財政支出（直接事業費）	431,373（534,981）	460,144（596,727）	425,938（568,074）	千円	1）	（1）	
②	指定管理事業	指定管理施設の稼働率		62.4	67.0	68.4	%	a	B	Ⅰ
		指定管理施設における主催事業の参加者数		112,627	144,000	135,028	人	b		
		事業別の行政サービスコスト	本市財政支出（直接事業費）	970,176（1,383,444）	981,117（1,625,332）	989,544（1,753,963）	千円	2）	（2）	
③	文化芸術に係る中間支援	文化芸術に係る相談件数		97	130	133	件	a	A	Ⅰ
		WEBサイトにて広報支援を行った市内での文化芸術イベントの件数		1,099	2,050	2,079	件	a		
		事業別の行政サービスコスト	本市財政支出（直接事業費）	27,868（28,048）	6,776（6,776）	5,869（6,169）	千円	1）	（1）	

2. 経営健全化に向けた取組

取組No.	項目名	指標	現状値（令和3（2021）年度）	目標値（令和6（2024）年度）	実績値（令和6（2024）年度）	単位	達成度	本市による評価・達成状況	今後の取組の方向性
①	収益性の強化	主要な経常収益（市財政支出を除く）	466,267	628,000	785,746	千円	a	A	Ⅰ
②	自立性の確保	経常費用のうち市財政支出の負担割合	73.1	65.2	61.0	%	a	C	Ⅱ
		一般正味財産額	465,770	502,767	430,894	千円	c		

3. 業務・組織に関する取組

取組No.	項目名	指標	現状値（令和3（2021）年度）	目標値（令和6（2024）年度）	実績値（令和6（2024）年度）	単位	達成度	本市による評価・達成状況	今後の取組の方向性
①	職員の専門性の向上	研修への参加回数	20	24	27	回	a	A	Ⅰ

（※1）【 a. 目標値以上、b. 現状値以上～目標値未満、c. 目標達成率60%以上～現状値未満、d. 目標達成率60%未満】
（行政サービスコストに対する達成度については、1). 実績値が目標値の100%未満、2). 実績値が目標値の100%以上～110%未満、3). 実績値が目標値の110%以上～120%未満、4). 実績値が120%以上）
（※2）【A. 目標を達成した、B. ほぼ目標を達成した、C. 目標未達成のものがあるが一定の成果があった、D. 現状を下回るものが多くあった、E. 現状を大幅に下回った】
（※3）【(1). 十分である、(2). 概ね十分である、(3). やや不十分である、(4). 不十分である】
（※4）【Ⅰ. 現状のまま取組を継続、Ⅱ. 目標の見直し又は取組の改善を行い取組を中止、Ⅲ. 状況の変化により取組を中止】

法人及び本市による総括

【令和5（2023）年度取組評価における本市の総括コメントに対する法人の受止めと対応】

川崎市の施策の推進に向けた取組については、ホームページやSNS、広報誌、チラシなど、経費に考慮しつつ様々な手法による広報を行ったことで、本部施設の稼動率や主催事業の参加者数については目標を達成することができましたが、指定管理事業における主催事業の参加者数については、目標を達成できませんでしたので、費用対効果を考慮し、様々な手法による広報等の取組を行っていきます。

文化芸術に関する中間支援の取組については、事業実施を通じて様々な文化団体との繋がりを広げることができたことで、目標を達成することができました。

経営健全化に向けた取組については、施設の稼動率や主催事業の参加者増に向けた取組を進め、収益に関しては令和5年度を超える実績で目標を達成することができましたが、物価高騰や一部助成金の獲得ができなかったため、一般正味財産は令和5年度に引き続き減少しました。

業務・組織に関する取組について、令和5年度に引き続き、財団職員としての専門知識の向上に向け、積極的に外部研修に参加しました。また、財団の理念等の策定に向け、法人内での議論を重ね、職務に対する意識の醸成を図りました。

経営基盤の強化に向けては、時勢に合わせた利用料金の改定や施設稼働率・主催事業の参加者増の取組を行うとともに、法人内の意識醸成の取組を進めました。

【令和6（2024）年度取組評価の結果を踏まえ、本市が今後法人に期待すること、対策の強化を望む部分など】

本市施策推進に向けた事業取組については、多様な手法を用いた積極的な広報や施設の多目的利用を進めるなど、各施設の稼働率や主催事業参加者数の増加に向けた取組を進めましたが、指定管理事業における主催事業の参加者数については、目標を達成することができなかったため、経費も考慮し、市民に十分に届くことを意識した広報の工夫がされるよう期待します。文化芸術に係る中間支援の取組においては、事業実施を通して、様々な文化団体とつながりを広げることで、目標を達成し、文化芸術に係る中間支援を通した文化芸術の振興に寄与することができたため、引き続き取組を進めていくことを期待します。

経営健全化に向けた取組については、経常収益は目標値を上回る実績を出せていますが、人件費や物価高騰等に伴う経常費用の増を上回ることができず、一般正味財産が減少しているため、引き続き、収入確保の取組を行うとともに、事業執行に伴う契約方法の見直しなど、一つ一つの事業の棚卸を行い、より効率的かつ効果的な運営に向けた検討を期待します。

業務・組織に関する取組については、法人内での議論を更に進め、事業の棚卸と併せ、執行体制の強化に向けた検討を期待します。

上記の取組を推進することにより、財政及び体制の両方の経営基盤を強化し、今後も本市の文化芸術振興の施策を実現する協働のパートナーとして、安定的な運営の確保に向け取り組んでいくことを期待します。

法人名（団体名）	公益財団法人川崎市文化財団	所管課	市民文化局市民文化振興室

1．本市施策推進に向けた事業取組①（令和6（2024）年度）

事業名	財団本部事業

計　画（Plan）

現状	財団は、川崎能楽堂等の文化芸術施設を運営し、文化芸術振興に係る多様な主催事業を実施しています。公益事業として収支の均衡をとることが難しい状況にあるところ、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴って利用キャンセルが多く発生するなど、施設運営や事業実施に大きな影響を受けているところではありますが、これらの事業は市民が文化芸術に触れるきっかけとなるものであり、事業実施方法の転換も視野にいれながら、その機会を増やしていく必要があります。
行動計画	様々な媒体を活用した施設広報、社会変容を踏まえた多用途での施設利用、施設相互の連携、施設の利便性の向上等に向けた取組を進め、段階的な施設稼働率の向上を図ります。併せて、地域の文化資源やIT技術を活用した多様な文化芸術事業を実施し、事業に関する市民ニーズや効果を検証しながら参加者数の増加を図ります。
具体的な取組内容	【指標1関連】 能楽堂では広報動画の活用や他分野での施設利用の促進を図ります。近隣小学校2校を対象にワークショップを開催し、若年層の興味・関心を高める取組を行います。また、近隣自治体の能楽堂の休館に伴う新規利用者の拡大を図るため、広報の強化を図るとともに、該当の事務局と連携します。プラザソルでは利用料金割引サービス「直近割」を今後も継続し、利用促進に向けた広報を行います。また、SNSを活用した施設紹介、利用案内を一層推進するとともに、スタッフが他の劇場等の活動団体に実際に出向き、関係者へ直接営業活動を行います。アートガーデンかわさきでは、より若い年齢層にも親しみやすい施設利用パンフレットの改訂やロゴの作成などにより、市民の認知度を高め新規利用者の獲得を図ります。トウェンティワンホールでは、多目的ホールの月利用制限の緩和と施設利用料の特別割引（練習利用）を引き続き行っていきます。 【指標2関連】 主催事業の参加者数増に向けて、アンケート等により市民ニーズの把握を行い、より魅力的な事業を実施するとともに、ホームページや広報紙等による情報発信、SNS等を活用した積極的な広報を行います。 能楽堂では川崎市市制100周年の冠事業として、定期能をはじめ狂言全集や芸能サロンなどを開催します。 プラザソルが毎月１回開催している「ラゾーナ寄席」については、従来からのチラシやホームページ等での広報、PR動画の配信など、様々な世代の市民に知ってもらい関心を持ってもらえるよう工夫を行っていきます。 浮世絵ギャラリーでは、引き続き企画展ごとのプレスリリースやインバウンド活用のための川崎駅周辺の宿泊施設へのチラシの配布、ポスターの掲示、HPでのギャラリー（施設）の紹介の協力の働きかけを行うとともに、新たにアウトリーチ事業を実施するなど、さらなる認知度の向上に取り組みます。また、川崎市制100周年を記念し、コレクションの名品を一堂に公開する企画展を行います。

実施結果（Do）

本市施策推進に向けた活動実績	【指標1関連】 稼働率に向けた認知度向上のため、能楽堂では施設紹介動画のウェブ掲載による周知を図った他、近隣学校からの見学を積極的に受け入れました（3校36人）。併せて、令和6年度から初めて、近隣小学校2校の6年生174名を対象にワークショップ「小学生のための能楽入門講座」を開催し、若年層の興味・関心を高める取組を行い好評を得ました。また、近隣自治体の能楽堂の休館に伴う新規利用者の拡大を図るため、近隣の能楽堂および関連施設において能楽堂の紹介パンフレットや公演チラシを配架しました。プラザソルでは、施設紹介や利用案内をはじめ、稼働率向上に寄与する利用料金割引サービス「直近割」の利用促進に向け、SNSを活用した広報を一層推進するとともに、スタッフが他の劇場、ホール等に出向き、活動団体の関係者に直接当ホールの利用促進に向けた勧誘活動を実施しました。アートガーデンかわさきでは、新たに若い年齢層にも親しみやすい施設利用パンフレットやロゴを制作・配布し、市民の認知度を高め新規利用者の獲得を図りました。トウェンティワンホールでは、多目的ホールの月利用制限の緩和と施設利用料の特別割引（練習利用）を引き続き行いました。 【指標2関連】 主催事業の参加者数増に向けて、アンケート等により市民ニーズの把握を行い、公演や講座内容に反映させるなど、より魅力的な事業を実施するとともに、当財団のホームページやSNS、情報誌「アートニュース」に加え、地域の情報誌、新聞などにより、積極的に広報を行いました。特に、令和6年度からはSNS「note」の運用を開始し、自主事業の関連情報や実施報告をウェブ上にストックしていくことで、市民の興味関心を高めるとともに、情報へのアクセスしやすさの向上を図りました。能楽堂では、川崎市市制100周年の冠事業として、定期能や狂言全集、芸能サロンを、麻生市民館では人間国宝の競演を開催しました。プラザソルでは毎月第3火曜日に開催している落語会「ラゾーナ寄席」について、チラシやポスター、ホームページ等での広報のほか、PR動画の配信や、川崎図書館において展示コーナーを利用した落語の楽しみ方の紹介などを行い、市民を始めとする様々な世代の人たちに知ってもらい関心を持ってもらえるよう努めました。川崎浮世絵ギャラリーでは、名品を一堂に公開する企画展「川崎市市制１００周年記念斎藤文夫コレクション名品展」を開催するとともに、浮世絵木版画実演鑑賞や摺り体験などを開催した他、市制記念日には入場料を無料とし記念品を配布するなど、多くの市民等に浮世絵に触れる機会を提供する取組を実施しました。さらに、東海道かわさき宿交流館をはじめ、地域で活動する団体等と連携しスタンプラリーなどのイベントを開催するなど、集客力の向上を図るとともに、アウトリーチ事業として、新百合21ホールやアートセンター等で「複製版画」を展示し、浮世絵ギャラリーの広報を行いました。 【その他】 川崎浮世絵ギャラリーは、総入場者数19,414人で令和5年度より約1,000人増加しました。 「川崎・しんゆり芸術祭（アルテリッカしんゆり）は実行委員会の構成員として参加し、入場者数20,074人で令和5年度より156人増加しました。

（各施設の稼働率）

	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R6目標値
川崎能楽堂	27.0	33.0	33.5	40.2	
ラゾーナ川崎プラザソル	72.9	80.4	81.7	73.5	
新百合トウェンティワンホール	43.2	48.5	41.5	51.9	
アートガーデンかわさき	43.3	60.1	68.0	74.0	
計	44.5	50.1	44.9	53.1	50.0

（各施設の主催事業参加者数）

	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R6目標値
川崎能楽堂	1,518	1,768	1,959	2,476	
ラゾーナ川崎プラザソル	765	871	1,002	966	
新百合ウエンティワンホール	21	389	427	474	
アートガーデンかわさき	972	1,111	1,149	1,858	
川崎浮世絵ギャラリー（年間パスポート）	277	256	324	341	
計	3,553	4,395	4,861	6,115	5,200

評　価（Check）

本市施策推進に関する指標			目標・実績	R3年度（現状値）	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	単位
1	財団所管施設の稼働率		目標値		42.0	46.0	50.0	54.0	%
	説明	川崎市能楽堂、ラゾーナ川崎プラザソル、新百合トウェンティワンホール（多目的ホール等）、アートガーデンかわさきの合計の区分利用率	実績値	44.5	50.1	44.9	53.1		
2	財団所管施設における財団主催事業の参加者数		目標値		3,600	4,400	5,200	6,000	人
	説明	川崎市能楽堂、ラゾーナ川崎プラザソル、新百合トウェンティワンホール、アートガーデンかわさき（浮世絵ギャラリー含む）における主催事業の参加者数	実績値	3,553	4,395	4,861	6,115		

指標1に対する達成度	a	a. 実績値が目標値以上 b. 実績値が現状値（個別設定値）以上～目標値未満 c. 実績値が目標値の60%以上～現状値（個別設定値）未満 d. 実績値が目標値の60%未満 ※個別設定値を設定している場合は指標の説明欄に記載
指標2に対する達成度	a	

法人コメント（指標に対する達成度やその他の成果等について）

指標1について、様々な媒体で積極的に広報を行ったことにより、実績値が昨年度より大きく上回り、目標値を達成しました。特に新百合トウェンティワンホールでは市主催事業への通年貸出しがあり、稼働率は大幅に上昇しました。
また、指標2に関しては、能楽堂において新たに小学生のためのワークショップを開催した他、市制記念日にアートガーデンかわさきでアンデパンダン展と浮世絵ギャラリーの特別開催を行うなど、参加者数増加に向けた様々な取組により目標を達成することができました。

本市による評価

達成状況	区分		区分選択の理由
	A. 目標を達成した B. ほぼ目標を達成した C. 目標未達成のものがあるが一定の成果があった D. 現状を下回るものが多くあった E. 現状を大幅に下回った	A	改善に向けた取組を進めたことで、「財団所管施設の稼働率」「財団所管施設における財団主催事業の参加者数」の実績値がいずれも目標を達成することができ、施設の管理運営、主催事業の実施を通して市民の活動の場の提供及び文化芸術に触れる機会の創出ができたため。

行政サービスコスト			目標・実績	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	単位
1	事業別の行政サービスコスト		目標値		402,939 (539,522)	369,189 (506,272)	460,144 (596,727)	427,040 (564,123)	千円
	説明	本市財政支出（直接事業費）	実績値	431,373 (534,981)	408,052 (555,711)	376,673 (542,103)	425,938 (568,074)		

行政サービスコストに対する達成度	1）	1). 実績値が目標値の100%未満 2). 実績値が目標値の100%以上～110%未満 3). 実績値が目標値の110%以上～120%未満 4). 実績値が目標値の120%以上

法人コメント（行政サービスコストに対する達成度について）

物価の高騰が続く中、施設使用料収入の増加を図るとともに経費節減に努めた結果、行政サービスコストは目標値を達成することができました。今後も引き続き経費の節減に努めるとともに、施設使用料収入等の増加を図るため、認知度向上の取組を進めていきます。

本市による評価

費用対効果（「達成状況」と「行政サービスコストに対する達成度」等を踏まえ評価）	区分		区分選択の理由
	(1). 十分である (2). 概ね十分である (3). やや不十分である (4). 不十分である	(1)	行政サービスコストが目標値の範囲内であるとともに、ホームページやSNS、情報誌などへの掲載など、様々な媒体での積極的な広報を進めたことにより指標1及び指標2の目標を達成することができたため。

改　善（Action）

実施結果（Do）や評価（Check）を踏まえた今後の取組の方向性	方向性区分		方向性の具体的内容
	Ⅰ. 現状のまま取組を継続 Ⅱ. 目標の見直し又は取組の改善を行い、取組を継続 Ⅲ. 状況の変化により取組を中止	Ⅰ	能楽堂については、長期休館中（令和6年1月～令和8年6月）の横浜能楽堂の利用者に対し、引き続きパンフレットの配布などの広報を行います。また、プラザソルや新百合トウェンティワンホールにおいては、引き続き「直近割」や「特別割引」の更なる周知など、稼働率の向上に向けた取組を進めていきます。浮世絵ギャラリーについても、作品解説や展示手法などを工夫することで、これまでのお客様にとっても、また、初めて来られた方、若者や高齢の方にとっても魅力的な企画展を開催していくとともに、市北部地域の施設を中心にしたアウトリーチ事業を実施するなど、浮世絵を活用した更なる文化振興を進めていきます。

法人名（団体名）	公益財団法人川崎市文化財団	所管課	市民文化局市民文化振興室

本市施策推進に向けた事業取組②（令和6（2024）年度）

事業名	指定管理事業

計　画（Plan）

現状	市民の自発的かつ創造的な文化芸術活動の場として、指定管理施設（ミューザ川崎シンフォニーホール等）の運営を行っています。新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴って利用キャンセルが多く発生するなど、施設運営や事業実施に大きな影響を受けているところではありますが、事業実施方法の転換も視野に入れながら、市民の文化芸術活動の振興のため、施設稼働率の向上、主催事業の参加者の増加を図る必要があります。 【各施設の指定管理期間】 ミューザ川崎シンフォニーホール：R2～R11 川崎市アートセンター：R4～R8 東海道かわさき宿交流館：H30～R4
行動計画	様々な媒体を活用した各施設の広報、社会変容を踏まえた多用途での施設利用、施設の利便性の向上等に向けた取組を進め、段階的な施設稼働率の向上を図ります。併せて、IT技術等も活用した多様な主催事業を実施し、事業に関する市民ニーズや効果を検証しながら参加者数の増加を図ります。 なお、各施設の指定管理の継続受託を見据えていますが、本計画期間中に指定管理者の変更があった場合は各指標の見直しを行います。
具体的な取組内容	【指標1関連】 ミューザ川崎シンフォニーホールでは、開館20周年を迎え、リボンバナーのリニューアルやペデストリアンデッキのフラッグの設置をはじめ、記念公演の企画や記念オリジナルグッズの販売など様々な取組を行い、さらなる利用促進の強化を図ります。 アートセンターでは、令和6年4月1日に全面リニューアルをしたホームページにイベントカレンダーを掲載するなどアクセシビリティの向上を図ります。また、映像編集室については、機器類も耐用年数が過ぎ、利用者が数年間ないことから、設置目的は達成されたものと考え、文化・芸術の発展に資する活用に向けた検討を進めます。 東海道かわさき宿交流館では、引き続き、ホームページや広報紙、SNS等を通じて施設広報を積極的に行うとともに、利用し易い施設運営を行います。 【指標2関連】 ミューザ川崎シンフォニーホールでは、記念公演の企画や記念オリジナルグッズの販売など様々な取組を行い、参加者数を増やす取組の強化を図ります。また一部の主催公演において、全国都市緑化かわさきフェア等と連動し、市制100周年を記念した企画を実施します。 アートセンターでは、映像館においては、シネマコンプレックスでは上映されない世界の名作・秀作を上映することで、多様化する市民のニーズに対応します。また、小劇場においては、市制100周年を念頭に置き、地元川崎に即した演目の上演のほか、これからの演劇ファンを増やし、若手演劇人の育成を図る意味から子供・青少年をターゲットとした演目を上演します。また主演公演では、アンケートを実施することで、お客様のニーズを把握し、その期待に応えられるような演目を公演します。 東海道かわさき宿交流館では、お客様のニーズに合った事業を企画するとともに、引き続き、ホームページや広報紙、SNS等を通じて主催事業の広報を積極的に行います。また、市制100周年に関する取組も行います。 【各施設の指定管理期間】 ミューザ川崎シンフォニーホール：R2～R11 川崎市アートセンター：R4～R8 東海道かわさき宿交流館：R5～R9

実施結果（Do）

本市施策推進に向けた活動実績	【指標1関連】 ミューザ川崎シンフォニーホールでは、開館20周年を迎え、記念公演や装飾の実施、記念オリジナルグッズの販売など様々な取組により、利用促進を図りました。 アートセンターでは、令和5年度にホームページの全面リニューアルを行ったことから、アクセシビリティの向上につながり、令和6年度は訪問回数が増えました。さらに、SNSでの発信を強化するため、これまで来館が少なかった客層をターゲットに、情報が届くように、広報担当を配置しました。また、NPO法人と連携して、コラボレーションスペースで文化芸術に関わる相談等を受け付けるコンシェルジュを開設し、この数年間利用がなかった映像編集室については、文化・芸術の発展に資するスペースとして有効活用できるよう、市や関係団体との協議を進めました。 東海道かわさき宿交流館では、稼働率を上げるため、お客様のニーズに合った事業を企画し、ホームページやSNS等を通じた広報を積極的に行い、認知度向上に向けた取組を行いました。 【指標2関連】 ミューザ川崎シンフォニーホールでは、開館20周年記念公演の企画や記念オリジナルグッズの販売など様々な取組を行い、参加者数を増やす取組の強化を図りました。また全国都市緑化かわさきフェアとの連携企画として、一部の主催公演にて、ロビーに生け花の装飾（川崎市茶華道協会）や、緑化フェアのポスター掲示・置きパンフレット・エコポットの配布を行うとともに、舞台上に装飾として花を設置する等、川崎市市制100周年を記念した取組を実施しました。 アートセンターでは、映画館を取り巻く厳しい環境の中、都内や近隣のミニシアターの閉館が相次ぎ、その受け皿としての役割も担うべく、世界の名作や秀作、岡本喜八監督をはじめとした川崎ゆかりの作品を上映し人気を博しました。また、小劇場でも、川崎に伝わる民話を題材とするなど、川崎市市制100周年を意識した作品を公演しました。アートセンターが立地する万福寺が学区となる麻生小学校と百合ヶ丘小学校の児童約300人にアンケートを実施し、これらの年齢層のニーズの把握に努め、次年度以降のプログラムに反映させることとしました。さらに、コラボレーションスペースでのイベントやアートセンター前の公開空地を活用したイベントを市や区と連携して開催し、新百合ヶ丘駅北口の賑わい創出に尽力しました。 東海道かわさき宿交流館では、お客様のニーズに合った事業を企画し、ホームページやSNS等を通じた広報を積極的に行いました。また、川崎市市制100周年記念企画展として「宿場から明治の川崎へ」（R6.4.6～5.26）　や「昭和時代の川崎」（R6.6.1～7.28）　、「爆誕!！かわさき物語」（市民ミュージアムとの共催）（R6.10.11～12.13）を行いました。さらに、9月には来館者が50万人を突破するとともに、例年開催している川崎宿スタンプラリーを全国都市緑化かわさきフェアの開催にあわせて、「東海道宿場まつり」、「六郷の渡しまつり」及び「いいじゃん川崎」と同時開催としました。 （各施設の稼働率） （各施設の主催事業参加者数）

（各施設の稼働率）

	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R6目標値
ミューザ川崎シンフォニーホール	74.5	77.8	81.1	81.5	
川崎市アートセンター	42.7	49.6	50.5	49.7	
東海道かわさき宿交流館	45.6	51.8	57.4	56.8	
計	62.4	65.2	68.5	68.4	67.0

（各施設の主催事業参加者数）

	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R6目標値
ミューザ川崎シンフォニーホール	59,216	71,800	75,343	83,605	
川崎市アートセンター	52,041	60,437	50,767	49,966	
東海道かわさき宿交流館	1,370	1,650	1,645	1,457	
計	112,627	133,887	127,755	135,028	144,000

評　価（Check）

本市施策推進に関する指標			目標・実績	R3年度（現状値）	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	単位
1	指定管理施設の稼働率		目標値		59.0	63.0	67.0	71.0	%
	説明	ミューザ川崎シンフォニーホール（音楽ホール等）、川崎市アートセンター(小劇場、映像館）、東海道かわさき宿交流館（集会室等）の合計の区分利用率	実績値	62.4	65.2	68.5	68.4		
2	指定管理施設における主催事業の参加者数		目標値		104,000	124,000	144,000	164,000	人
	説明	ミューザ川崎シンフォニーホール、川崎市アートセンター、東海道かわさき宿交流館における主催事業の参加者数	実績値	112,627	133,887	127,755	135,028		

指標1に対する達成度	a	a. 実績値が目標値以上 b. 実績値が現状値（個別設定値）以上～目標値未満 c. 実績値が目標値の60%以上～現状値（個別設定値）未満 d. 実績値が目標値の60%未満 ※個別設定値を設定している場合は指標の説明欄に記載
指標2に対する達成度	b	

法人コメント（指標に対する達成度やその他の成果等について）

指標1については、様々な機会を捉え、各施設において、積極的な広報や取組を進め、認知度向上に向けた取組を実施したことで、目標を達成することができました。指標2については、参加者数増加に向けた様々な取組を進め、3施設全体の参加者数は前年度より増加しましたが、アートセンターでは映画館を取り巻く厳しい環境の中、参加者数がコロナ禍前に戻りきらず、また、東海道かわさき宿交流館では周年事業が終了し、事業数が減ったことなどにより、目標を達成することはできませんでした。

本市による評価

達成状況	区分		区分選択の理由
	A. 目標を達成した B. ほぼ目標を達成した C. 目標未達成のものがあるが一定の成果があった D. 現状を下回るものが多くあった E. 現状を大幅に下回った	B	指標1については、改善に向けた取組を進めたことで、目標を達成することができました。指標2については、実績値が現状値以上となりましたが、目標を達成することができなかったものの、前年度実績値を超えたことから、市民の文化活動の場の提供と文化芸術に触れる機会の創出ができたため。

行政サービスコスト			目標・実績	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	単位
1	事業別の行政サービスコスト		目標値		960,863 (1,574,777)	981,917 (1,599,224)	981,117 (1,625,332)	981,117 (1,607,722)	千円
	説明	本市財政支出（直接事業費）	実績値	970,176 (1,383,444)	990,821 (1,544,348)	991,873 (1,718,441)	989,544 (1,753,963)		

行政サービスコストに対する達成度	2)	1). 実績値が目標値の100%未満 2). 実績値が目標値の100%以上～110%未満 3). 実績値が目標値の110%以上～120%未満 4). 実績値が目標値の120%以上

法人コメント（行政サービスコストに対する達成度について）

引き続き、電気料等の光熱費の高騰等により、行政サービスコスト（本市財政支出）は目標値の範囲内とはなりませんでした。市へ適切な対応を求めるとともに、今後も経費節減に努めながら効率的な事業執行を行い、施設利用料収入等の増加を図るため、認知度向上等の取組を進めます。

本市による評価

費用対効果（「達成状況」と「行政サービスコストに対する達成度」等を踏まえ評価）	区分		区分選択の理由
	(1). 十分である (2). 概ね十分である (3). やや不十分である (4). 不十分である	(2)	行政サービスコストについて、光熱費増等の社会状況の影響などにより、目標値を超えてしまったこと、また、指標2の目標値は達成できなかったものの、指標1の目標は達成できたため。

改　善（Action）

実施結果（Do）や評価（Check）を踏まえた今後の取組の方向性	方向性区分		方向性の具体的内容
	Ⅰ. 現状のまま取組を継続 Ⅱ. 目標の見直し又は取組の改善を行い、取組を継続 Ⅲ. 状況の変化により取組を中止	Ⅰ	指定管理施設の稼動率では目標値を達成しましたが、主催事業の参加者数では、目標値は達成できなかったものの、実績値が現状値以上となり、前年度実績値を7,273人上回りました。引き続き、現行の取組を推進するとともに、ホームページや広報紙、SNS等を通じて施設の広報を積極的に行い、更なる稼働率の向上と参加者数の増加に取り組みます。また、入場料収益や施設利用料収益、友の会収益、物品販売収益などの自己収入の確保、国庫補助金等の獲得に取り組みます。

法人名（団体名）	公益財団法人川崎市文化財団	所管課	市民文化局市民文化振興室

本市施策推進に向けた事業取組③（令和6（2024）年度）

事業名	文化芸術に係る中間支援

計　画（Plan）

現状	財団は、市が現在、検討を進めている「アート・フォー・オール」の考え方も踏まえ、広報、相談、ネットワークの構築、ボランティア等の人材育成など、文化芸術に係る中間支援の役割を担うことが期待されています。新型コロナウイルス感染症の影響で文化芸術活動が様々な制限を受けるなか、その中間支援の役割の重要性は増しています。 財団は、これまで音楽やパラアートを重点分野として、その中間支援の実績を蓄積してきましたが、そのノウハウを文化芸術全般へ広げていくことが求められます。
行動計画	・文化芸術に関する相談に幅広く対応できるよう、職員のスキルアップを図るとともに、相談窓口の広報周知の取組を行います。 ・財団が管理する「『音楽のまち・かわさき』推進協議会」、「ぱらあーとねっと」のWEBサイトを周知するとともに、社会変容により文化芸術活動が多様化していることも踏まえ、様々な媒体に多くのイベント情報を掲載し、文化芸術活動の広報を通じた支援を行います。 ・文化芸術公演の主催者に対する会場使用料等の助成など、新型コロナウイルス感染症の文化芸術活動への影響を踏まえた中間支援の取組を行います。ただし、令和5年度以降の取組については、新型コロナウイルス感染症の動向も踏まえる必要があることから、事業内容に変更があった場合には、事業別の行政サービスコストの目標値の見直しを行う場合があります。
具体的な取組内容	【指標1関連】 文化芸術に係る相談対応のため、次のとおり取り組みます。 ・資源の仲介（コーディネート、情報提供） 活動者ならびに支援者、鑑賞者、一般市民などの需要と供給をコーディネートし、情報面で活動をサポートするため、ウェブサイトや紙媒体による関連のイベント、団体、補助金等の情報提供を通じて、事務局自体の活動を周知し、相談の受け皿としての存在周知につなげています。パラアートにおいては、公募型事業委託への提案申請を通じて、事前の相談や助言を行う機会を設けるなど、パラアートに取り組む事業者・団体に対する支援を行います。 ・ネットワークの促進 音楽のまちづくり事業では「音楽のまち・かわさき」推進協議会を中心とした産官学連携による協働をより一層進めます。運営委員会を年3回開催し、各セクター間の情報共有、意見交換を行います。また、市内で音楽活動を行う個人、団体、事業者等のネットワークを促進するため、交流会を開催し、新たな事業創出やコラボレーションが生まれやすい機運を醸成します。パラアートについては、パラアートに取り組む個人や団体、行政職員などによる事例発表と交流の場としてパラアートミーティングを開催します。 ・相談対応に関する職員のスキルアップ 様々な相談に対応するため職員の研修参加機会を増やし、スキルアップに努めます。 【指標2関連】 ・情報発信 音楽のまちづくり事業では、市内で行われる事業に対して後援を行い、当財団の広報媒体による情報発信でイベント参加者を増やすための広報を支援します。また、「音楽のまち・かわさき」ではテレビ神奈川、かわさきFMといったマスメディアを利用し、市内で活躍する音楽関係者、学校、企業など音楽に取り組む人々のストーリーを紹介し、活動を支援します。また周年事業を通じておんまちの取組を知ってもらう機会とし、音楽活動を行う市民へのPR支援に対する認知拡大に取り組みます。 パラアートについて、職員が情報収集することに加え、「パラアートミーティング」の開催や連携イベントにより、ネットワークを広げることで、広報支援を行う文化芸術イベントの件数を増やします。 【その他】 ・地域連携 パラアートにおいては、パラアートの魅力を感じてもらうため絵画展「Colorsかわさき展」を開催します。さらに、地域のアーティストを紹介するワークショップ（3日間）や課題解決・つながりづくりを目指すパラアートミーティング（2日）、パラアートを他団体の主催イベントに取り入れてもらう連携イベントを実施します。新たに、市が主催するアートを介してコミュニケーションを創出するプロジェクトと連携し、「対話型鑑賞」等を実施します。音楽のまちづくり事業では、川崎ゆかりのアーティストを中心にフリーライブをコーディネートし、商業施設との連携で実施します。また、かわさきジャズやミューザ川崎、かわさきパラムーブメントなどの事業に協力し、ワークショップ出展などを行います。

実施結果（Do）

本市施策推進に向けた活動実績	【指標1、2関連】 ・資源の仲介（コーディネート、情報提供） ウェブサイト「音楽のまち・かわさき」や「ぱらあーとねっと」、紙媒体では「おんまちプチマガジン」や情報誌「アートニュース」（ともにHPにも掲載）にイベント、団体、補助金等の情報を提供することで、当財団の活動を知ってもらえるよう積極的に周知を行いました。パラアートにおいては、公募型事業委託への提案申請を通じて事前の相談や助言を行う機会を設けるなど、パラアートに取り組む事業者・団体に対する支援を行いました。 ・ネットワークの促進 音楽のまちづくり事業では、「音楽のまち・かわさき」推進協議会を中心とした産官学連携による協働をより一層進めました。年3回の運営委員会にて各セクター間の情報共有、意見交換を行うとともに、市内で音楽活動を行う個人、団体、事業者等のネットワークを促進するため、交流会を開催しました。また、パラアートについては、団体等による事例発表と交流の場としてパラアートミーティング2回開催しました。さらに神奈川県障がい者芸術文化活動支援センターと連携強化を図り、パラアートに関する取組や相談状況などの情報共有を図りました。 ・相談対応に関する職員のスキルアップ 様々な相談に対応するため、川崎市視覚障害者情報文化センター等と連携するなど、職員の研修参加機会を増やし、スキルアップに努めました。 ・情報発信 音楽のまちづくり事業では、市内で行われる事業に対して後援を行い、当財団の広報媒体を使用してイベントの広報支援を行いました。また、テレビ神奈川、かわさきFMといったマスメディアを利用し、市内で活躍する音楽関係者、学校、企業など音楽に取り組む人々を紹介し、活動を支援しました。また周年事業を機会とし、音楽活動を行う市民へ認知拡大を図りました。 パラアートについて、職員が情報収集することに加え、「パラアートミーティング」の開催や連携イベントにより、ネットワークを広げることで情報を収集しました。また、神奈川県が実施する類似のイベントで広報連携したことで、SNSのフォロワー数を着実に伸ばすことができました。 【その他】 ・地域連携 パラアートにおいては、パラアートの魅力を感じてもらうため絵画展「Colorsかわさき展」を開催しました。今年度は新たに、NHK横浜放送局との共催展示や、市が主催するアートを介してコミュニケーションを創出するアートコミュニティ形成プログラムとの連携による「対話型鑑賞」等に加え、岡本太郎美術館で巡回展を初実施しました。さらに、地域のアーティストを紹介するワークショップ（3日間）や課題解決・つながりづくりを目指すパラアートミーティング（2日）、パラアートを他団体の主催イベントに取り入れてもらう連携イベント（主催：川崎ルフロン、NECプロボノ倶楽部、コミュニティカフェココデなど）を実施しました。パラアート作品の常設展示は、川崎市生涯学習プラザ及び川崎市青少年の家の協力のもと、障害福祉施設延べ8施設の作品を展示しました。音楽のまちづくり事業では、川崎ゆかりのアーティストを中心にフリーライブ（溝の口、鷺沼駅前、ラゾーナ）をコーディネートし、商業施設との連携で実施しました。また、かわさきジャズ、ミューザ川崎、かわさきパラムーブメントなどの事業に協力し、ワークショップ出展などを行いました。

評　価（Check）

本市施策推進に関する指標			目標・実績	R3年度（現状値）	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	単位
1	文化芸術に係る相談件数		目標値		110	120	130	140	件
	説明	財団（「音楽のまち・かわさき」推進協議会を含む）において対応した、文化芸術に関する相談件数	実績値	97	119	124	133		
2	WEBサイトにて広報支援を行った市内での文化芸術イベントの件数		目標値		1,550	1,800	2,050	2,300	件
	説明	財団のWEBサイト（「『音楽のまち・かわさき』推進協議会」、「ぱらあーとねっと」等）に掲載した市内での文化芸術イベントの件数	実績値	1,099	1,617	1,938	2,079		

指標1に対する達成度	a	a. 実績値が目標値以上 b. 実績値が現状値（個別設定値）以上～目標値未満 c. 実績値が目標値の60%以上～現状値（個別設定値）未満 d. 実績値が目標値の60%未満 ※個別設定値を設定している場合は指標の説明欄に記載
指標2に対する達成度	a	

法人コメント（指標に対する達成度やその他の成果等について）

パラアートに取り組む個人や団体、行政職員などによる事例発表と交流の場としてパラアートミーティングを開催するとともに神奈川県障がい者芸術文化活動支援センターと連携強化を図り、パラアートに関する取組や相談状況などの情報共有を図ることができました。
さらに音楽のまちづくり事業では、市内で行われる事業に対して後援を行い、当財団の広報媒体を使用してイベントの広報支援を行うとともに「音楽のまち・かわさき」推進協議会を中心とした産官学連携による協働をより一層進めたこともあり、目標値を達成することができました。

本市による評価

達成状況	区分		区分選択の理由
	A. 目標を達成した B. ほぼ目標を達成した C. 目標未達成のものがあるが一定の成果があった D. 現状を下回るものが多くあった E. 現状を大幅に下回った	A	「文化芸術に係る相談件数」は133件となり、目標値を達成することができ、また「WEBサイトにて広報支援を行った市内での文化芸術イベントの件数」は2,079件となり、目標値を達成するとともに、相談や広報支援を通じてネットワークの構築を図るなど、中間支援により、文化芸術の振興に寄与することができたため。

行政サービスコスト			目標・実績	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	単位
1	事業別の行政サービスコスト		目標値		30,355 (30,355)	6,776 (6,776)	6,776 (6,776)	6,776 (6,776)	千円
	説明	本市財政支出（直接事業費）	実績値	27,868 (28,048)	27,515 (27,705)	6,301 (6,481)	5,869 (6,169)		

行政サービスコストに対する達成度	1）	1). 実績値が目標値の100%未満 2). 実績値が目標値の100%以上～110%未満 3). 実績値が目標値の110%以上～120%未満 4). 実績値が目標値の120%以上

法人コメント（行政サービスコストに対する達成度について）

事業別の行政サービスコストについて、目標を達成することができましたが、引き続き、経費削減に努めながら効率的な事業執行を行うとともに、市民が文化芸術に触れる機会の提供と障害の有無に関わらず文化芸術を楽しむことができるよう取り組んでいきます。

本市による評価

費用対効果（「達成状況」と「行政サービスコストに対する達成度」等を踏まえ評価）	区分		区分選択の理由
	(1). 十分である (2). 概ね十分である (3). やや不十分である (4). 不十分である	（1）	行政サービスコストが目標値の範囲内であるとともに、パラアートや音楽をはじめとした、市民の文化芸術活動に関する相談への対応や、「ぱらあーとねっと」、「音楽のまち・かわさき」推進協議会のホームページを運用することなどにより、中間支援に取り組むことで指標1及び指標2の目標を達成することができたため。

改　善（Action）

実施結果（Do）や評価（Check）を踏まえた今後の取組の方向性	方向性区分		方向性の具体的内容
	Ⅰ. 現状のまま取組を継続 Ⅱ. 目標の見直し又は取組の改善を行い、取組を継続 Ⅲ. 状況の変化により取組を中止	Ⅰ	引き続き、積極的に研修を受講する等、文化芸術に関する職員のスキルアップを図ることで、適切でより効果的な相談業務や広報業務を行っていきます。 さらに、文化財団の広報誌「アートニュースかわさき」の見直しを進めるとともに様々な媒体に多くのイベント情報を掲載するなど、文化芸術活動の広報を通じた支援を行います。

法人名（団体名）	公益財団法人川崎市文化財団	所管課	市民文化局市民文化振興室

2. 経営健全化に向けた取組①（令和6（2024）年度）

項目名	収益性の強化

計　画（Plan）

現状	主要な経常収益（事業収益）から市の委託料・指定管理料を除いた財団の自己収入は、新型コロナウイルス感染症の影響で令和2年度以降大きく減少しましたが、財団の経営基盤を強化して、新たな事業展開や優秀な人材の確保等の課題に対応するためには、自己収入を増やしていく必要があります。
行動計画	主催事業の実施による入場料収入や施設利用の促進による施設利用料収入の増加等により、段階的な自己収入の増加を図っていきます。
具体的な取組内容	入場料収益や施設利用料収益、友の会収益など事業収益の確保のため、主催事業の企画の充実やチラシ、SNS等の様々な媒体を活用した、施設や主催事業の積極的な広報を行います。特にプラザソルでは、今般の経済情勢や、都内・県内周辺地域の同規模類似施設と比較して、競争力のある適正な利用料金として価格の値上げを行うとともに、直近割の広報強化や施設の連続利用日数の緩和により、新たな需要を掘り起こすことで利用促進を図るなど、収益性の強化と収益率の改善を行います。 また、浮世絵ギャラリーでは、認知度向上のため、レプリカを活用した巡回展示の実施やホームページの多言語化、各種広報物のリニューアルを行うことに加え、民間企業と連携するなど、入館者増に係る取組を進め、入館料収入や物販収入の増加に取り組みます。

実施結果（Do）

経営健全化に向けた活動実績	事業収益の確保のため、主催事業の発信において市内ゆかりの人物に着目した地域情報誌での記事掲載や、公演の見どころを財団の情報誌やウェブで発信するなど、様々な媒体を活用し積極的な広報を行いました。また、プラザソルでは、利用料金の値上げについて計画的に調整を進め、当初の取組目標どおり令和7年4月1日から施行いたしました。浮世絵ギャラリーでは、レプリカを活用した巡回展示を6か所で実施し、北部地域での認知度向上に努めるとともに、ホームページの多言語化、各種広報物のリニューアル、カワスイ川崎水族館と連携し、相互割引を実施するなど入館者増に向けた取組を進めました。また、アートセンターにおいて、映像館の料金について調査・検討を行い、令和7年4月1日から一般、シニア、会員料金を値上げし、一方で将来の来館につながるよう学生料金の値下げすることとしました。ミューザでは事業収益の確保のため、主催事業の企画の充実やチラシ、SNS等の様々な媒体を活用した施設や主催事業の積極的な広報を実施しました。東海道かわさき宿交流館では、来館者の購買意欲を引き出す魅力的な商品（東海道五十七次手拭い等）の販売に取り組みました。

評　価（Check）

経営健全化に関する指標			目標・実績	R3年度（現状値）	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	単位
1	主要な経常収益（市財政支出を除く）		目標値		556,000	592,000	628,000	664,000	千円
	説明	主要な経常収益（事業収益）から市財政支出額（委託料・指定管理料）を除いた額	実績値	466,267	593,167	745,641	785,746		

指標1に対する達成度	a	a. 実績値が目標値以上 b. 実績値が現状値（個別設定値）以上～目標値未満 c. 実績値が目標値の60%以上～現状値（個別設定値）未満 d. 実績値が目標値の60%未満 ※個別設定値を設定している場合は指標の説明欄に記載

法人コメント（指標に対する達成度やその他の成果等について）

施設の稼動率や主催事業の参加者増に向けた取組を進めた結果、事業収益が増加し、目標値を達成することができました。

本市による評価

	区分		区分選択の理由
達成状況	A. 目標を達成した B. ほぼ目標を達成した C. 目標未達成のものがあるが一定の成果があった D. 現状を下回るものが多くあった E. 現状を大幅に下回った	A	各施設それぞれの稼働率や主催事業参加者数の増加に向けた取組を進めたこと等により、安定した収益を得ることができ、目標値を達成したため。

改　善（Action）

	方向性区分		方向性の具体的内容
実施結果（Do）や評価（Check）を踏まえた今後の取組の方向性	Ⅰ. 現状のまま取組を継続 Ⅱ. 目標の見直し又は取組の改善を行い、取組を継続 Ⅲ. 状況の変化により取組を中止	Ⅰ	引き続き、入場料収益や施設使用料収益、友の会収益など事業収益の確保のため、様々な媒体による広報を行い、集客数の増加に努めていきます。

法人名（団体名）	公益財団法人川崎市文化財団	所管課	市民文化局市民文化振興室

経営健全化に向けた取組②（令和6（2024）年度）

項目名	自立性の確保

計　画（Plan）

現状	経常費用に対する市財政支出（補助金、指定管理料）の割合は、新型コロナウイルス感染症に係る逸失収入補償金を計上したことなどより、令和2年度以降大きく増加しましたが、自己収入の増加と当該収入に基づく費用の執行に努めて、市からの財政支援依存度を低減し、財団の自立性を確保する必要があります。 一般正味財産額については、新型コロナウイルス感染症等の影響で減収となったため、減少の傾向にありますが、財団経営の安定性、自立性を確保する観点から、一般正味財産の確保に取り組む必要があります。
行動計画	有料事業の実施、協賛金の確保等により事業収入の増加を図るとともに、市に依存しない事業執行に努めることで、市からの財政支援依存度の低減を図っていきます。 収支均衡に向けた取組を推進し、一般正味財産額の確保に取り組みます。
具体的な取組内容	【指標1関連】 入場料収益や施設利用料収益、友の会収益など事業収益の確保のため、主催事業の企画の充実やチラシ、SNS等の様々な媒体を活用した、施設や主催事業の積極的な広報を行います。プラザソルでは利用料金の価格改定や直近割の広報強化、施設の連続利用日数の緩和により、新たな需要を掘り起こすことで利用促進を図るなど、収益性の強化と収益率の改善を行うとともに、浮世絵ギャラリーでは、認知度向上のため、レプリカを活用した巡回展示の実施やホームページの多言語化、各種広報物のリニューアルを行うことに加え、民間企業と連携するなど、入館者増に係る取組を進め、入館料収入や物販収入の増加に取り組みます。 また、助成金等の活用や協賛金の獲得による自主財源の確保に加え、事業の見直しや購入物品の精査など経費の効率的な執行等に取り組みます。 特にミューザ川崎シンフォニーホールでは現状の稼動率を維持し、人件費や物価等の高騰に伴う経費の増高に対応するため、経費の削減に努めると共に、主催事業の企画の充実など、さらなる入場者の増加に向けた取組を進めます。 【指標2関連】 公共事業の収支相償の原則による事業執行、助成金の活用、収益事業は施設管理事業及び物品販売事業による収益の確保、法人会計は近年の人件費や物価高騰を踏まえ、事業の見直しや購入物品の精査などによる経費の効率的な予算執行により、財団全体として収支均衡を図り、一般正味財産の確保に努めます。

実施結果（Do）

経営健全化に向けた活動実績	【指標1関連】 事業収益確保のため、主催事業の企画の充実に努めるとともに広報誌やHP、SNSなど様々な媒体を活用して積極的な広報を行いました。 また、浮世絵ギャラリーでは認知度向上のためレプリカを活用した巡回展示を5か所実施するとともに、ホームページの多言語化、各種広報物のリニューアル、カワスイ川崎水族館と相互割引などの連携を図り入館者増に係る取組を進めました。 さらに、プラザソルやアートセンターでは利用料金の改定に向け検討を進めた結果、令和7年4月1日から実施することとなりました。 ミューザ川崎シンフォニーホールでは、魅力的な事業企画実施等による入場料収入の確保、施設の周知やサービスアップ等の満足度向上への努力及びスケジュール調整による利用可能日確保等による施設利用料収入の確保、委託費の一部見直しによる経費削減などを実施しました。 【指標2関連】 公益事業は収支相償の原則による事業執行、助成金の活用、収益事業は施設管理事業や物品販売事業による収益の確保、法人会計は効率的な予算執行により財団全体として収支均衡となるよう努めましたが、物価高騰等の社会状況の影響などにより支出が増えたことやアートセンター運営における国の補助金が一部不採択となったことなどにより目標を達成することができませんでした。 また、令和6年度はミューザ川崎シンフォニーホール開館20周年にあたり、20周年事業積立金（4500万）を取崩して事業を実施したため、その分、一般正味財産額は減少することとなりました。

評　価（Check）

経営健全化に関する指標			目標・実績	R3年度（現状値）	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	単位
1	経常費用のうち市財政支出の負担割合		目標値		67.0	65.2	65.2	63.6	%
	説明	経常費用に対する市財政支出（補助金、委託料、指定管理料）の割合	実績値	73.1	66.6	60.5	61.0		
2	一般正味財産額		目標値		347,810	502,767	502,767	502,767	千円
	説明	一般正味財産額	実績値	465,770	502,767	457,961	430,894		

指標1 に対する達成度	a	a. 実績値が目標値以上 b. 実績値が現状値（個別設定値）以上～目標値未満 c. 実績値が目標値の60%以上～現状値（個別設定値）未満 d. 実績値が目標値の60%未満 ※個別設定値を設定している場合は指標の説明欄に記載
指標2 に対する達成度	c	

法人コメント（指標に対する達成度やその他の成果等について）

指標1に関しては、各施設で、主催事業の企画の充実に努めるとともに広報誌やHP、SNSなど様々な媒体を活用して積極的な広報を行った結果、事業収益等の増加に繋がり、結果的に川崎市の財政支出の割合を減らすことができました。また、指標2に関しては、事業収益等は増加したものの、物価高騰等の社会状況の影響などにより支出が増えたことで目標を達成することができませんでした。なお、令和6年度はミューザ川崎シンフォニーホール開館20周年にあたり、過去5年間積み立てた周年事業積立金（900万×5年＝4500万）を取崩して20周年記念公演等の事業に充てたため、その分、一般正味財産額は減少しています。

本市による評価

	区分		区分選択の理由
達成状況	A. 目標を達成した B. ほぼ目標を達成した C. 目標未達成のものがあるが一定の成果があった D. 現状を下回るものが多くあった E. 現状を大幅に下回った	C	指標1について、各施設ともに稼働率や主催事業参加者数の増加に向けた取組を進めたことにより、施設利用料収益や友の会収益など事業収益が増加し、目標値を達成したため。しかし、指標2については、収益は増加したものの、引き続く人件費や物価高騰等の社会状況の影響などにより支出が増えたことで、一般正味財産が減少したため。

改　善（Action）

	方向性区分		方向性の具体的内容
実施結果（Do）や評価（Check）を踏まえた今後の取組の方向性	Ⅰ. 現状のまま取組を継続 Ⅱ. 目標の見直し又は取組の改善を行い、取組を継続 Ⅲ. 状況の変化により取組を中止	Ⅱ	今後、事業の経費や効果等を検証し、必要に応じて事業の見直し等を行います。また、引き続き、施設利用料収益、友の会収益など事業収益の確保、助成金の活用、購入物品の精査など経費の効率的な執行等に取り組むとともに、魅力的な企画や演目の実施、広報の工夫等により集客効果を高め、入場料収益の向上などに取り組みます。

法人名（団体名）	公益財団法人川崎市文化財団	所管課	市民文化局市民文化振興室

3. 業務・組織に関する取組①（令和6（2024）年度）

項目名	職員の専門性の向上

計　画（Plan）

現状	文化芸術の専門組織として、職員のスキルアップを図り専門性を向上させることは大きな課題であり、財団では、施設や職域ごとに文化芸術等に関する職員研修を実施しています。
行動計画	施設ごとに実施している研修を合同で実施したり、国等が主催する外部の研修に職員を積極的に派遣するなどし、職員のスキルアップを図るとともに、研修の内容を職員間で共有するなどし、組織としての専門性向上やサービス向上につなげます。
具体的な取組内容	財団職員としての基礎的な研修や文化施設職員としての専門性向上のための研修を計画的に実施し人材育成を図ります。 また、文化庁や全国公立文化施設協会、川崎商工会議所等主催の外部研修に職員を積極的に参加させ、能力向上を図ります。 なお、今年度は財団職員全てが組織としての方向性を共有できるよう、財団の理念等の策定に取り組みます。各所属から推薦された職員でワーキンググループを組織し、財団を取り巻く状況について学ぶとともに財団の将来を見据えた議論を行い理念等を明確化していきます。さらには、今後の職員のスキルアップに向けたキャリアプランの形成、その前提となる組織主体での職員ヒアリングの実施、エンゲージメント向上に向けた取組を進めるとともに、諸条件の改善に向けた検討を進めます。

実施結果（Do）

業務・組織に関する活動実績	財団職員としての基礎的な研修や文化施設職員としての専門性向上のための研修や、ミューザ川崎シンフォニーホールでは文化庁や全国公立文化施設協会、地域創造、川崎商工会議所等主催の外部研修に参加し、人材育成と能力向上を図りました。 アートセンターでは「アートセンター人材育成計画」を策定し、経験年数に応じた研修に参加させるとともに、ジョブローテーションを意識した役割分担を行いました。 また、新たに財団の理念等を策定するため、各所属から推薦された9名の職員でワーキンググループを組織し、他都市の財団の視察や13回におよぶ議論を行うとともに、ワーキングの検討状況にあわせ、全職場討議を2回実施しました。ワーキングの検討結果については、理事会でも報告し、財団職員全てが組織としての方向性を共有しました。さらに、キャリアプランの形成、その前提となる組織主体での職員ヒアリングの実施、エンゲージメント向上に向けた取組を進めるとともに、諸条件の改善に向けた検討を行いました。

評　価（Check）

業務・組織に関する指標			目標・実績	R3年度（現状値）	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	単位
1	研修への参加回数		目標値		16	20	24	28	回
	説明	専門性向上等のための研修への財団職員の参加回数	実績値	20	24	27	27		

指標1に対する達成度	a	a. 実績値が目標値以上 b. 実績値が現状値（個別設定値）以上～目標値未満 c. 実績値が目標値の60%以上～現状値（個別設定値）未満 d. 実績値が目標値の60%未満 ※個別設定値を設定している場合は指標の説明欄に記載

法人コメント（指標に対する達成度やその他の成果等について）

外部研修への積極的な参加により、業務に必要な幅広い知識の習得を促進し、職員の能力の向上、意識の醸成を図り、財団職員としての専門知識が向上しました。
また、財団の理念等の策定に向け、各所属から推薦されたメンバーで13回に及ぶ議論を行ったことで財団を取り巻く状況や課題等についての理解を深めることができ、職務に対する意識の醸成を図ることができました。

本市による評価

	区分		区分選択の理由
達成状況	A. 目標を達成した B. ほぼ目標を達成した C. 目標未達成のものがあるが一定の成果があった D. 現状を下回るものが多くあった E. 現状を大幅に下回った	A	業務上必要な幅広い専門的知識を習得するため、積極的に外部研修に参加し、目標を達成することができたことに加え、財団の理念等の策定により職務に対する意識の醸成を図ることができたため。

改　善（Action）

	方向性区分		方向性の具体的内容
実施結果（Do）や評価（Check）を踏まえた今後の取組の方向性	Ⅰ. 現状のまま取組を継続 Ⅱ. 目標の見直し又は取組の改善を行い、取組を継続 Ⅲ. 状況の変化により取組を中止	Ⅰ	引き続き、財団内で研修情報を共有し、職員が積極的に研修に参加できる環境を整備し、人材育成に取り組みます。

法人（団体名）	公益財団法人川崎市文化財団	所管課	市民文化局市民文化振興室

●法人情報

（1）財務状況

収支及び財産の状況（単位：千円）		令和3（2021）年度	令和4（2022）年度	令和5（2023）年度	令和6（2024）年度	令和7（2025）年度
正味財産増減計算書	（一般正味財産増減の部）					
	経常収益	1,980,168	2,137,125	2,215,807	2,295,039	
	経常費用（事業費）	1,796,353	1,972,669	2,149,097	2,195,002	
	経常費用（管理費）	122,072	127,390	111,446	127,035	
	うち減価償却費	19,085	22,118	21,676	21,661	
	当期経常増減額	61,743	37,067	△44,736	△26,997	
	経常外収益					
	経常外費用			0		
	税引前当期一般正味財産増減額	61,743	37,067	△44,736	△26,997	
	当期一般正味財産増減額	61,673	36,997	△44,806	△27,067	
	（指定正味財産増減の部）					
	当期指定正味財産増減額			△22,001	△2,300	
	正味財産期末残高	497,549	534,546	467,739	438,372	
貸借対照表	総資産	733,831	758,435	721,174	734,806	
	流動資産	350,116	350,250	349,440	398,423	
	固定資産	383,715	408,185	371,734	336,383	
	総負債	236,282	223,889	253,435	296,434	
	流動負債	236,282	223,889	253,435	296,434	
	固定負債					
	正味財産	497,549	534,546	467,739	438,372	
	指定正味財産	31,779	31,779	9,778	7,478	
	一般正味財産	465,770	502,767	457,961	430,893	

主たる勘定科目の状況（単位：千円）		令和3（2021）年度	令和4（2022）年度	令和5（2023）年度	令和6（2024）年度	令和7（2025）年度
経常収益	事業収益	1,436,580	1,584,117	1,737,652	1,786,579	
経常費用	委託費（事業費＋管理費）	556,524	662,966	789,358	802,945	
総資産	特定資産	139,091	140,557	115,966	78,710	
総負債	有利子負債（借入金＋社債等）					

本市の財政支出等（単位：千円）	令和3（2021）年度	令和4（2022）年度	令和5（2023）年度	令和6（2024）年度	令和7（2025）年度
補助金	431,237	407,921	376,534	425,938	
負担金					
委託料	136	129	138		
指定管理料	970,176	990,820	991,872	989,544	
貸付金（年度末残高）					
損失補償・債務保証付債務（年度末残高）					
出捐金（年度末状況）	30,000	30,000	30,000	30,000	
（市出捐率）	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

財務に関する指標	令和3（2021）年度	令和4（2022）年度	令和5（2023）年度	令和6（2024）年度	令和7（2025）年度
流動比率（流動資産／流動負債）	148.2%	156.4%	137.9%	134.4%	
有利子負債比率（有利子負債／正味財産）					
経常収支比率（経常収益／経常費用）	103.2%	101.8%	98.0%	98.8%	
正味財産比率（正味財産／総資産）	67.8%	70.5%	64.9%	59.7%	
経常費用に占める市財政支出割合 （（補助金＋負担金＋委託料＋指定管理料）／経常費用）	73.1%	66.6%	60.5%	61.0%	
経常収益に占める市財政支出割合 （（補助金＋負担金＋委託料＋指定管理料）／経常収益）	70.8%	65.5%	61.8%	61.7%	

法人コメント		本市コメント
現状認識	今後の取組の方向性	本市が今後法人に期待することなど
コロナ禍後、社会活動や経済活動の活性化により、入場料収入や施設使用料収入は回復傾向にありますが、アートセンターで行っている映画上映事業などは全国的にも回復傾向は後退気味であり、ミューザをはじめ各事業について、人件費や光熱水費等の物価高騰といった社会状況の影響を受け経常経費も増加しているため、昨年に引き続き、正味財産は減少しました。 また、令和6年度はミューザ開館20周年を迎えた年であり、周年事業として積み立てた預金（4500万円））を取り崩して支出しています。	コロナ禍後、社会活動や経済活動が活性化し、施設の入場料収入や施設使用料は回復傾向ではありますが、映画業界においては社会情勢の変化を受け全国的にも観客数は回復しておらず、アートセンターにおいても同様に入場料収入は伸び悩んでいます。また、財団全体としても経常収益は増加しているものの、経常費用の増加がそれを上回る状況となっています。 経費の増加の一因は社会情勢の変化による光熱水費や人件費、諸物価の高騰であり、今後も、この傾向はしばらく続く可能性が高いと思われますが、引き続き経費の効率的な執行に加え、魅力的な企画の立案に努めるとともに様々な媒体による積極的な広報を行うことで、収益の確保を図ります。	本法人は、本市と共に文化芸術振興の施策を実現する協働のパートナーとして非常に大きな役割を担っています。 施設利用料収益や物品販売収益は増加しましたが、物価高騰等の影響により、経常費用が増加し、経常収支比率は100%を切り、正味財産は減少しました。 今後は、新たに策定した財団の理念等に基づき、組織としてより高い意識を持って文化芸術事業や施設運営を行うとともに、各種取組による収入確保及び事業の棚卸や執行に伴う契約方法の見直しなど、経営健全化に向けた効率的かつ効果的な運営、さらに執行体制の強化に向けた取組に期待します。

（2）役員・職員の状況（令和7年7月1日現在）

	常勤（人）			非常勤（人）		
	合計	（うち市派遣）	（うち市OB）	合計	（うち市在職）	（うち市OB）
役員	1	0	1	8	0	0
職員	49	0	11	0	0	0

【備　考】

●総役員に占める本市職員及び退職職員の割合が3分の1を超過していることについての法人の見解

・理由

・今後の方向性